参おしらせ

古古古米

俺の

の分だと

鶏騒

備蓄した

ストレス弾ける

しライブ 亀井 千代蔵

土生 洋子 様

しあわせな 記憶の備蓄に

生かされる

青柳 婦美子 様

災害の 予行練習 庭キャ

時田 まゆみ

避難口

F

が

散**歩道**

夫

老い二人

第十五回 さんくろう

ま 4 す 1 。 7 が受賞されました。 川柳選考委員会による審査の結果、 ? 今回のテーマは「備蓄」? 通の応募を頂きました。 」です。さんくろこ。ありがとうござい 左記の6名様 さんくろう

蓄えに ロマンス詐欺が

忍び寄る 石畝 秀高

結果発表

M

今日のお昼は 非常食 ほしかった

が 見当たらず しのばせる する練習 愛知さち子 わはは男爵 東 名津子 角森 玲子 袴田 奈月 尾崎 良輔 冨野泰啓 青りんご 大石洋介 舛田美子 かねやん 小田慶喜 松尾重史様 古塩 寛 逸見修

広報誌名「めだか」は、当院の中庭でみんなに愛でられ育つめだかのように、親しんでいただきたいという思いから名付けられました

めだが 98号(2025年10月) 年3回(2月、5月、10月)発行

防災力

発行責任者:加藤 真二 発行: 医療法人 三九会 〒471-0035 愛知県豊田市小坂町7丁目80番地 TEL 0565-32-0282(代) FAX 0565-35-2570

外来診療のご案内





2025年11月 病室を増床 リハビリがより身近に

事務長 伊藤 順七蔵

2025年11月より、三九朗病院ではリハビリテーションセンター前に病室を増床いたします。新たに4人部屋1室と個室4室を加え、 患者さんにとってより快適で便利な療養環境を提供します。

1 リハビリがもっと身近に

病室がリハビリテーションセンターに近接することで、患者さんは移動の負担が減り、よりスムーズにリハビリを受けることができます。特に自立度の高い患者さんにとっては、リハビリの合間に自主練習を行うこともでき、回復を自分のペースで進めることができます。移動が少なくなることで、リハビリへの取り組みやすさが格段に増します。



個室



リハビリテーションセンタ-

2 リハビリスタッフとの距離が近い安心感

病室とリハビリテーションセンターが近いため、患者さんが困った際にはす ぐにリハビリスタッフに相談でき、安心して入院生活をお過ごしいただけます。 リハビリスタッフも、患者さんの日常の様子や回復状況を見守りながら、一人 ひとりに合わせた支援を行うことが可能です。

3 プライバシーと療養環境の向上

個室が増え、患者さんのプライバシーがより守られる環境となります。静かな環境でリラックスして療養できることは、回復を促進する上で重要です。また、リハビリと療養を両立できるよう生活リズムを整えやすく、回復のスピードを速めることができます。

4 きめ細やかで柔軟なサポート体制

病室がリハビリテーションセンターに近くなることで、患者さんの日常的な様子をスタッフがより把握しやすくなり、体調の小さな変化にも気づきやすくなります。これまでも迅速な対応を行ってまいりましたが、より一層きめ細やかで柔軟なサポート体制が実現します。



四人部屋

三九朗病院は、患者さんの立場に立ち、常によりよい療養環境を提供し、一人ひとりにとって適切なリハビリのサポートを考えています。

新しい病室は2025年11月に 完成予定です。どうぞご期待く ださい!

患者さんの笑顔のために

私たちの"やりがい"が ここにあります

看護部長 加納 明美

回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中や骨折などの治療を終え た患者さんが、退院を目指してリハビリに励んでいます。「その人らし い牛活の再建 | を支えるために、当院では、医師・看護師・リハビリスタッ フ・看護補助者・MSW (医療ソーシャルワーカー)など多職種が連携し、 チーム医療に取り組んでいます。その中で日々患者さんと向き合ってい る看護スタッフの声をご紹介します。



看護師 A さん

2年以上のブランクを経て、家庭との両立に不安を感じながらの 復帰でしたが、職場の皆さんが優しく丁寧に教えてくださり、質 問もしやすい雰囲気のなかで徐々に不安は解消されました。最近 では仕事にも慣れ、定時で帰れる日も多く、帰宅後は家族や自分 のために有意義に過ごせています。

看護師以外の職種の方とも気軽に相談でき、職種の垣根を越え

て支え合えるチームであることを実感 しています。これからもこのチームの 一員として、私らしく患者さんに寄り 添う看護を続けていきたいと思います。





看護補助者 Bさん

入院されて初めての入浴で、「まさか湯船につかれるなんて! | と 喜んでいただけたことがありました。「またあなたにお願いしたい」

と声をかけていただいたときは、本当にうれ しくて、それが日々の頑張る力になります。

患者さんの笑顔や感謝の言葉は、私たちに とって大きな励みです。



看護補助者 Cさん

慣れない入院生活の中で、少しでも安心して過ごしてもらえる ように心がけています。特別なことはしていませんが、トイレの

付き添いで「何度もごめんね、ありがとうね」 と声をかけていただいたり、「お風呂が一番気 持ちいい | と笑顔を見せてもらえたりすると、 「やっぱり私はこの仕事が好きだな」と心から 感じます。



回復期リハビリテーション病棟は、患者さんの「これからの暮らし」を支 える、やりがいのある場所です。「人と関わることが好き」「誰かの役に立 ちたいしという思いがあれば、看護補助の仕事は未経験でも大丈夫。看護師 の方も、仕事のブランクがあっても、回復期の経験がなくても心配いりませ ん。あなたも私たちと一緒に、患者さんの笑顔を支える仲間になりませんか?

▼ お問い合わせ先 三九朗病院 ☎ 0565-32-0282 (代) 三九朗病院・三九朗東リハビリテーション病院の見学・面談は、担当:江崎まで

医療安全の質向上に向けて

~地域連携による相互評価の取り組み~

下療安全管理者 菅原 陵子

三九朗病院では、「安全で質の高い医療を継続して提供すること」を 基本方針に掲げ、2018年から地域の医療機関と連携し、医療安全に関 する相互評価活動を行っています。これは、単に自院の取り組みを見直 すだけでなく、他院の視点を取り入れることで、より客観的かつ実践的 な改善につなげることを目的としています。

「相互ラウンド」で安全の取り組みを互いに評価

この活動では、看護師や薬剤師、事務職など多職種が参加し、病棟や病室 などを巡回して、患者さんの様子や環境を観察し、必要な情報を収集・共有 する「相互ラウンド」を年に一度行っています。相互ラウンドでは、チェッ クリストに基づく書類の確認や、病棟・外来・薬局など現場の見学、スタッ フへの聞き取りなどを行い、評価と助言を行います。

評価を受ける側だけでなく、評価を行う側にとっても、他院の工夫や現場 の雰囲気から多くの学びがあり、双方にとって有意義な機会となっています。





院内では見逃されがちな点に気づくきっかけに

昨年度は、豊田地域医療センター の医療安全担当の方に、当院の評 価を行っていただきました。全体 として「医療安全への意識が高く、 日常業務の中に安全文化が浸透し ている」との評価をいただきました が、一方で「記録の標準化」「ヒヤリ・

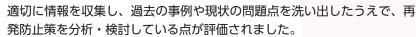


ハット報告の活用方法」などについて改善の余地があるとの指摘もいただき ました。

このような相互評価は、日々の業務の中では気づきにくい点を浮き彫りに し、院内では見逃されがちなリスクや改善点に気づく貴重な機会となります。 特に「外から見た自院」を意識することで、改めて当院の強みや課題を客観 的に捉えることができます。

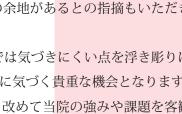
今後も、地域の医療機関と協力しながら、より高いレベルでの医療安全体 制の構築に取り組みます。患者さんにとって「安心して医療を受けられる病 院」であり続けるよう、全職員で改善に努め、学びを重ねてまいります。

| 評価された点



■再発防止策の例

- ・配膳車との接触リスク▶移動配膳車が音楽を鳴らすことで周囲に注意を促す
- ・屋外リハビリでの急変リスクトスマホ (連絡手段) と応急セットを携行する
- ・転倒時の頭部損傷リスクト保護帽の着用を推奨する



6 めだか ♪ 10月号(No.98) めだか ♪ 10月号(No.98) 7

フットサルで広がる職員交流の輪

~フットサルサークル紹介~

作業療法士 天野 雅斗

三九朗病院と三九朗東リハビリテーション病院では、「職種を超えた交流の場」として、2024年10月にフットサルサークルを結成し、月1回程度、UB東海フットサルクラブで活動しています。メンバーは、理学療法士・作業療法士をはじめ、看護師、MSW (医療ソーシャルワーカー)、薬剤師、管理栄養士といった多様な職種で構成されています。年齢層も10代から40代までと幅広く、職員の家族が参加することもあります。経験者・未経験者を問わず、「楽しく身体を動かす」ことを大切にした、明るく開かれた雰囲気が特徴です。

2024年12月には、活動拠点であるフットサル場主催の大会にも参加。今後はさらなる大会への出場やメンバー拡大も目指し、交流の輪をさらに広げていきたいと考えています。

運動不足の解消やストレス発散だけでなく、普段関わりの少ない職種との会話が生まれ、日々の業務にも良い影響を与えていると感じています。フットサルを通じて生まれるチームワークの力が、現場の連携にもつながっています。



いざという時のために

~院内防災訓練を実施~

リハビリテーション部 課長 中村 嘉貴

近年、大きな災害が続いており、 今後30年以内に南海トラフ地震が 発生する可能性が高いと言われて います。

三九朗病院では、災害発生時に おける安全確保を目的に、定期的 に防災訓練を実施しています。今 年度は7月2日、入院中の患者さん にご協力いただき、「水平移動避 難訓練」を行いました。訓練では、



防災訓練のようす (患者さんを安全な場所まで誘導)

実際にストレッチャーや車いすを使用して、隣接病棟まで移動する手順を確認。限られた人員や時間の中で、安全かつ効率的に避難誘導を行うには、職員同士の連携が重要であることを再認識する機会となりました。

また、夜間を想定した SNS による緊急連絡訓練と、新入社員を対象とした 消火器訓練を実施しました。

災害発生時には、避難所での生活を余儀なくされることが予想されます。 不慣れな避難所生活の中では、介護が必要な方の福祉用具の検討や、介護食 (刻みやとろみ等)などの食事のアドバイス、運動やコミュニケーションの不 足に陥らないような対策が重要です。リハビリ専門のスタッフが、知識と経 験を活かし、安心できる環境づくりをサポートします。

今後も当院では、リハビリと防災を結びつけながら、安全な医療環境づく りに努めてまいります。

本部 現地



8 めだか♪ 10月号(№.98)

例 東リハだより

中学生の職場体験を実施しました

三九郎東リハビリテーション病院 部長 松重 好男

三九朗東リハビリテーション病院では、毎年、中学生と高校生の職場 体験を行っています。今年は7月2日と3日に中学生が職場体験をし ました。

患者さんの治療やケアには、すべての職種の協力・連携が必要不可 欠です。そのため、見学では、作業療法士が行うリハビリ訓練だけで なく、看護師や管理栄養士の仕事も見てもらいました。また、車いす

に乗ったり器具を使ったりして、体の 不自由さの疑似体験もしてもらいまし た。参加した生徒さんの中には、将来、 作業療法士になりたいという人もいま した。将来の夢の後押しができるよう、 これからも職場体験を継続していきた いと思います。



看護師とベッド環境整備



装具や錘をつけて体に麻痺がある状態 を体験する「障がい者体験」。動かない ことがどれだけ大変かを実感

スタッフが笑顔で楽しそうで、 私もこう いう職場で働けたら、疲れも心地よく 感じるのだろうなと思いました。



リハビリ訓練見学

リハビリは骨折やねんざなどで入院する 人が多いと思っていましたが、高齢の 方や脳の病気の人が多いということが わかりました。

SHIN-SHIN とよたが発信します!

運動不足解消! 簡単トレーニング

年齢とともに筋肉は衰え、筋肉量も減っていきます。すると、立つ・歩く・ 姿勢を保つなど、日常動作に支障が出てきます。気温も落ち着き身体を動 かしやすい季節になりました。今日から運動を始めてみませんか?

膝周り

15回×2

※2~3秒キープしましょう

レベル 🛨





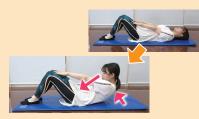
- 膝をしっかり伸ばし床と平行にする
- つま先を自分の方へ向ける

おなか

レベル★★

15回×2

※息を吐きながら上体を



- 目線をおへそに向ける
- 床から肩甲骨が離れるくらい 上体を上げる。

お尻

15回×2

レベル 🛨

※2~3秒キープしましょう



膝、もも、お腹、胸、肩が一直線に なるようにお尻を引き上げる

15回×2 ※膝の痛みがある方は無理





- ●片足を前に出し腰を落とす
- 膝がつま先より前にでないように

『継続』することが大切です。今日から始めてみましょう!

見学・無料体験受付中! スタジオ参加もできます!!

→メディカルフィットネス SHIN-SHIN とよた (三九朗病院内)☎ 0565-34-6272 【体験受付】10:00~19:00(休館日:日曜日) 【営業時間】9:00~21:00(土・祝20:00まで)(休館日:日曜日)